

牧羊ひろば



函館中央教会 教会学校

「この教会の子ども達は、本当に元気だね！」

初めて教会に来られた方や、久しぶりに来られた方が時々このように言われますが、本当に元気（ちょっとヤンチャ？）な子ども達の教会学校の様子をご紹介します。

●礼拝

函館中央教会は、一九八七年四月に開所式が行われ、伝道師と一家族だけの礼拝でスタートしました。教会学校も、子どもがいなくて中断した時期もありますが、今は毎週礼拝を守られている事を感謝します。

礼拝は、毎週日曜日十時から三十分間です。プログラムは、賛美、祈り、説教、献金、主の祈りです。賛美は、二ヶ月間同じ曲一曲を歌い続けます。毎礼拝で同じ曲を二回賛美しますから、さすがに二か月間同じ曲を歌い続けると、嫌でも憶えてしまいます。

ある子どものお母さんが、「娘が、教会学校に来ていないお友達と遊んでいる時、何気なく無意識に賛美を口ずさむので、そのお友達もいつの間にかすっかり覚えてしまい、一緒になって歌っていた」と、とても喜んでいました。子ども達の生活の中に自然と賛美が口からこぼれる、ズバリこれが狙いです。また、いつの間にか子ども達がMY聖書を持参するようになり、皆で一節ずつ順番に読みます。聖書を読む事も楽しいようで、今では聖書を開くのもすっかり早くなりました。そして、お話の中で教師の質問に、とても積極的に答えてくれます。時々、珍回答でお話の流れを元に戻すのに苦労しますが…。み言葉と賛美が子ども達の生活にしっかりと根づく事を願っています。

●分級

教師は二人いても、一人は礼拝奏楽者なため、残念ながら、分級は一人で担当することがあります。分級と言いつつも、実際は、三才から十二才までと年齢差がかなりありますが、皆一緒にワーク等をします。子ども達は、教師の手が足りないのを理解していて、年上の子が小さ

な子をよく助けてくれます。また、保護者の方もお手伝いをして下さり、感謝しています。

分級で特に力を入れているのは、暗唱聖句です。「楽しい楽しい暗唱聖句。み言葉は宝！」と言って、一年の内で十か月掛けて、一月に一つ目の聖句、二月は二つ目の聖句プラス一月の聖句という具合にひと月に新しい聖句を一つずつ憶えていき、段々増えて、十月末には約十個の聖句を憶えていることになります。子ども達は実に根気よく頑張っています。聖書箇所はなかなか憶えづらいですが、子ども達がアイデアを出してくれたり、四苦八苦したりしながらも、互いに励まし合い、楽しく憶えています。ヤンチャな子ども達も、この時はとても真剣に取り組んでいます。教会学校に付き添って参加している保護者の方々も、一緒に頑張って憶えています。やがてこのみ言葉が子ども達の内に蓄えられて、子ども達を助け導いて下さることを信じて、励んでいます。

●子ども祝福式

十か月掛けて憶えた聖句を、十一月の子ども祝福式で会衆の前に、皆で一緒に発表します。今年は、詩篇23篇

を暗唱し、ヘブル語でも一、二節を暗唱しました。これは、教会の皆様にも大変大きな励ましとなりました。牧師による祝福祈祷の後、プレゼントを受け取る子ども達の達成感と嬉しそうな笑顔が、本当に私たちにとってとても大きな喜びです。



子ども祝福式 賛美とみ言葉暗唱

●小学六年生卒業お祝い会

小学六年生卒業のお祝いを兼ねてのお楽しみ会で、巨

大すごろく作りをしました。会堂の椅子を片付けて床一面に段ボールを貼り合わせて、巨大すごろくを自分たちで作成し、お昼は教会員が作ってくれたハヤシライスを美味しく頂いた後、いよいよゲーム開始、罰ゲームでは大いに盛り上がりました。中学生になると教会へ来なくなる人が多い中、楽しい思い出作りをし、イエス様がいつも一緒にいて下さること、教会はいつも皆を待っていることを、胸に刻み込んで欲しいと願っています。



巨大すごろく作り

●誕生会ほか

その他、誕生会にカードとお菓子でのお祝い、敬老の日には、手作りカードをお渡しし、大変喜ばれました。イースター・エッグ作り、お菓子リース作り、アドベント・カレンダー作りと、子ども達が大活躍です。

花の日には、近所の交番と消防署にお花を届けましたが、お礼に消防車に乗せられたり、消防士服やホースに触れたり、とても有意義な時を過ごしました。

また、教会のお兄さんと一緒に大きなプリン、大きなババロア作りと、家では出来ない大きなシリーズも好評です。



花の日に消防署にて

●ハレルヤ・キッズ

教会学校に來られない子ども達のためには、クリスマス会と不定期のハレルヤ・キッズを行っています。

第一部は礼拝で賛美とショートメッセージ、第二部は楽しみ、というプログラムになっています。ケーキの



リース作り

●福音のためなら

教会行事のバーベキュー大会、クリスマス祝会、大掃



ハレルヤ・キッズ 綿あめ機の前で

デコレーション、お菓子バイキング、ジャンケン大会、ゲーム大会、綿あめ、ポップコーン、フラワーアレンジメント等、教会の皆様の助けをいただいております。人手不足でなかなか定期的にはできませんが、何とか継続出来たらと願っています。

除等への参加や、園芸部のご労によって教会庭の片隅の小さな畑。イチゴ、トマト、胡瓜等、ほんの少しですが、子ども達は礼拝後かごを持って収穫に行くのが楽しみとなっています。そして、愛餐で大人も子どもも皆で少しずつ分け合って頂くこともとても嬉しく思います。

しかし、毎週時間に追われ、子ども一人ひとりにじっくりと向き合えない、子ども達の声に耳を傾けていない状況に、問題も感じます。今後、これらの事にどう対処すべきか、主の助けと導きを祈っています。

今の時代、子どもが子どもらしく生きにくい時代、愛が冷えた時代、親から見捨てられる時代に、子どもたちが、独り子なる御子イエス様を救い主としてこの世にお送り下さり、愛を表して下さった神様を信じて従い、幸いな生涯を歩んで欲しいと、願って止みません。

小さな教会ですが、教会の皆様の祈りと愛の中で、温かく見守られていることの幸いを感謝しています。

「福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。」

(Ⅰコリント9・23 新共同訳)

(二宮友子)



クリスマス祝会